

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園真美ヶ丘東幼稚園

1. 本園の教育目標

- 心豊かでいきいきとした子どもを育てる
- 心身ともに健康で、明るく元気な子どもを育てる
- 自ら意欲的に遊びを創造していける子どもを育てる
- 豊かな感性を持ち、喜んで表現していける子どもを育てる

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

研究主題「様々な活動を通して、豊かに学ぶ子どもを育てる」

- 個々の発達段階に即し、入園から修了までの長期的な視野で教育内容や方法の改善充実に努める
- 幼児が意欲的・主体的・協同的な学びや活動ができるような幼児の立場に立った環境づくりに努める
- 基本的な生活習慣及び健康な生活に必要な態度や習慣の形成に努め、元気に挨拶ができる幼児の育成をめざす
- 様々な人と関わりながら心を通い合わせ、自ら考え行動できる力を育てる
- 家庭や地域との連携を深めながら教育の推進に努める
- 特別な支援の必要な幼児の実態を把握し、自立の基礎となる力を育てる
- うがい・手洗い等を徹底し、感染対策に配慮した活動を工夫する
- 災害時などの行動の方法がわかり、安全に気を付けて行動できる幼児の育成

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 教育の質と保育力の向上	B	職員が日々園児や保護者に、誠実に向き合い、記録や話し合いなど振り返りを大切に努力してきた。しかし、幼児の発達の姿を捉え、幼児の姿をより深く理解することの思いが職員一人一人に違いがあることも多く、園での共通理解の大切さがさらに重要になると考えた。また、個々に専門性やスキルを高めていく必要があると感じる。 昨年、課題とあげていた日々の保育のドキュメンテーションは1号認定医・2号認定児共に高評価であった。 また、今年度は、放送教育に力をいれ園内研修を繰り返す中で、ICTを積極的に活用し取り組むことができた。ICTの様々な機能や使い方をすることで保育の幅も広がり、質の向上につながることを実感した。
(2) 評価と教育課程の編成	B	編成した教育課程の実施状況を評価しその改善を図り教育活動の質の向上をめざして取り組んできた。特に認定こども園として大切にしていきたいことは、幼児教育を充実させることそして、日々の生活の中で擁護面もしっかり考えることがもっとも大切なことであると痛感した。 本年度は、保護者対応や日々の保育に追われて、計画していたことが十分に達成できなかった内容もあるので、今後、目指していくところの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、評価・反省を繰り返しながらも今後どうすればよいのかをしっかりと考え、教育課程の編成をする必要がある。 1号認定児、2号認定児また、2号認定児の中でも仕事の関係などで、保護者にとっても様々な思いがあったと推測するが「楽しく幼稚園に通っています。子ども達のためにできることを考えて、実施してもらったことに感謝している」との声をいただいている。
(3) 地域・関係機関・保護者と連携し地域に根ざしたこども園	B	今年度は感性症対策を講じながらもほぼ、コロナ禍前の保育にもどした保育内容を考え実施してきた。 運動会・参観など行事もできるだけ制限のない環境で執り行うことができたように思う。 保育所・小学校・中学校とも少し交流というかたちで関わる機会も増え、来年度に向けての新たな計画を進めていけるのではないかと考えている。 地域の方の声から園児の描いた絵を門の掲示板に掲示することで話題も広がり、大変喜んでいただいている。 今後はさらに地域の方との交流に目をむけ地域の中のこども園をめざせるように努力していきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

- ・ こども園になり2年がたち、少し、園も保護者も少し落ち着いたように思われる。行事のもちかた、時間、開始回数など様々な見直しをしながら安定した保育環境をおくることができるよう努力してきた。すべての保護者の要望に応えることはできないが園として教育課程をふまえた子ども成長を最も重視した内容になるよう努力している。そのため、保護者の方には理解していただく必要もあり、しっかりと園の考えを丁寧に伝えご支援・ご協力をお願いしてきた。
- ・ 園児を取り巻く環境や状況の変化とともに、保育ニーズの多様化・複雑化により幼児一人一人に応じた指導は益々困難を極めている。保育実践を通して一定の成果は得られているが、保育の質と保育者の資質能力の向上が重要な課題である。解決方法の一つとしては、園内研修であるが、研修によって保育者自身の専門性やスキルを高めていかなければならない。2号認定児・預かり保育の園児の保育があるため職員会議がみんなでもつことができないこともあり、今年度は保育を交代し、1日2回会議を行うよう努力してきた。
- ・ 様々な人と出会い、ふれあいは、子どもたちにとって、子どもの豊かな心情の育成につながっていくと考える。来年度は、さらに関係機関と連携をとり積極的に進めていけるようしていきたいと考える。こども園になり就労されている保護者の方の保育希望は解消されたと思われるが、預かり保育を希望される保護者の方もまだまだ多く支援を必要とされている現状は高まっている。なのでこども園になったにもかかわらず預かり保育の定員がいっぱいになることもしばしば見られた。今後は感染症対策を行いながらコロナ前に行っていた未就園児保育、交流会については、進めていける方向で保育を進めていけたらと思う。

5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
教育の質と保育力の向上	<p>昨年好評であった、ドキュメンテーションを中心に、動画、写真、ボード記述を活用して、職員が学び合うことができる保育を目指す。職員研修を進める中で経験年数の浅い職員が思いを伝えることができるよう月に1回程度、ディスカッション形式を取り入れたり、中堅教諭が自分のもっている保育技術を提供したりできるような場を設定したりしながら互いに評価し改善しながら資質向上をめざす。</p> <p>また、知識・技能の習得のため、研修の運営の柔軟な工夫が必要である。</p> <p>個々の職員の教材研究の努力、指導改善の工夫や成果には個人差があるので今後も課題である。また、今後も放送教育やICTを活用し保育に取り入れていきたい。</p>
カリキュラムマネジメントを核にした評価と教育課程の編成	<p>編成した教育課程の実施状況を評価しその改善を図り教育活動の質の向上を図ることが求められている。</p> <p>幼児期の教育は日々の積み重ねであるが、本年度は園児の実態をしっかりとらえ、一人一人の園児にしっかり寄り添った保育をめざし、十分な計画のもと掲げた目標が達成できるように努力していきたい。今後も昨年同様ICT活用を積極的に取り入れ、目指していくところの「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、次年度及び次々年度を見通した教育課程の編成をする必要がある。</p>
幼稚園・地域・関係機関・保護者みんなで進める子育て支援	<p>保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者が期待する幼稚園像を把握するとともに幼稚園の取組が保護者・地域に理解をえられるようにホームページなど工夫しながら取り組んでいきたい。今年度からは、さらに保育所・小学校・中学校との交流もできる範囲で進めていきたい。また、ICTを活用し保育に取り入れるとともに、保育活動の様子など保護者や地域へポータルフォリオなども利用しながらの発信できればと考える。そして、さらに地域から信頼されるこども園づくりを推進したい。</p>

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

- ・ こども園として保護者のニーズを考え、行事の見直しなどを講じながら、保育を行うことができたと思う。今後は行事を行う時間など一人一人の保護者のニーズいあわせていくだけではなく、様々な状況を考慮して園児のために園として、どのような工夫が必要かをしっかり考え、計画していくようにしていきたい。今後も園児や保護者が楽しく安定した園生活を送ることができるよう努力していく必要性を感じている。
- ・ 地域との連携に関しては、小学校・保育所・中学校と行事や活動を共にすることができた。保護者からも交流を喜んでいてというご意見もいただいた。来年度も今できる事、すべきことを限られた環境の中で様々な工夫をして取り組んでいきたいと再認識した。
- ・ 今年度も地域の方や前役員の方で構成された評価委員会を年3回行うことができた。その他、園の行事にも参加していただくことができとてもうれしく思う。その中で「経験が浅い先生、他園より異動してきた先生がおられる中で、園職員の保育力育成のため側面からアドバイスや側面からの援助をしていただきました。家庭も含めての子どもの育つ過程に園が大切な場所になってもらうことを期待します」と話していただいた。職員の意識改革を徹底し一人一人の園児の個性が輝くような保育をめざし取り組んでいきたい。
- ・ 職員の保育力の向上については、個々の経験差、指導の工夫、教材研究等にもよるが、今後も教育の質の向上に向け積み重ねていかれることを願う。